

『継体大王と近江』 そして弟国の宮はなかった？

継体大王は、古代でも謎の多い天皇として知られます。継体の出自は近江高島で、淀川水系で遷都を繰り返し、最後は大和に入り即位しました。

ここでは継体と近江とのかかわり、また弟国の宮はなかった？などについてお話しします。

日時 令和4年1月22日(土)

午後1時～3時

場所 守山市立図書館多目的室

講師 後藤国彦氏（郷土史家）

参加 事前申し込み不要，参加無料

内容 高島での出自，当時の琵琶湖の活用，越前高向へ，武烈の継承，荒籠の説得，樟葉の宮・筒城宮・弟国の宮への遷都，大和磐余玉穂の宮遷都，意柴沙加宮の謎，記紀の記載，今城塚古墳，磐井の反乱など

* コロナウイルス感染症対策にご協力願います。図書館入口での検温、手指の消毒、マスクの着用をお願いします。
* 感染拡大状況によっては、中止になることがあります。
* できるだけ公共交通，また車に乗り合わせてご来場いただきますようお願いいたします。

主催 矢島歴史の会

当会は守山市矢島に拠点をおき、近江、守山地域の歴史を発掘・研究し、広く発信する団体です。

事務局 090-3487-1730 八幡吉治

